

コロナ禍でも走り続けます

市内の交通事業者は新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を行い、市民の暮らしの足を守っています。運行事業者を代表して現状を伺いました。



商業組合静岡県タクシー協会
沼津・三島支部長

鈴木 智善 さん

市内のタクシー事業者全体の利用者は前年に比べ、3月で4割減、4月と5月は7割減と大幅に落ち込みました。その後は徐々に持ち直してきてはいますが、9月でも5割減と、とても苦しい状況です。また三島では新幹線を利用した出張客・観光客が多かったため、他の地域と比べても大きな影響を受けています。

今後、コロナ禍が収束したとしても、生活様式の変化により、以前のような集客は望めませんが、安全・安心の移動サービスをご提供できるように、ウィズ・コロナといわれる「新しい生活様式」が求められる中においても引き続き地域住民の生活の移動を支えるため、私たちに出来ることをしっかり取り組んで参ります。



伊豆箱根バス株式会社
三島営業所所長

木口 典久 さん

緊急事態宣言が発令され、市内のバス事業者全体で4月の利用は約6割減少しました。6月以降は企業や学校が再開し、少しずつ利用は増加傾向にありますが、テレワークの浸透や企業の休業の影響により利用形態が大きく変わり、現在も7割程度の売上で推移しており、収束後の利用についてもコロナ禍以前のようには戻らないと考えています。路線バス事業を貸切バス事業が支える形で会社を運営しておりますが、貸切バスの需要も落ち込み、経営は極めて厳しい状況です。利用者の日々の生活を支えるという役割を果たすため、乗務員の感染予防を徹底し、安全・安心に運行を継続できるよう、市内運行事業者一丸となって、取り組んで参ります。

新型コロナウイルス対策に取り組んでいます

◆事業者の取り組み

- 乗務員のマスク着用、咳エチケットやうがい、手洗いなども徹底
- 点呼時（出社前）の検温による健康確認を実施
- 定期的に車内清掃・車内消毒を実施
- 定期的に窓を開けて、換気に努める
- バスでは、飛沫感染防止のための乗務員席にビニールカーテン設置を推進
- タクシーでは、キャッシュレス化を推進



点呼時の検温



車内の除菌



安心な車内環境



車内の清掃

公共交通機関を利用する皆さまへ

地域公共交通を利用する人は、周囲の人を不安な気持ちにさせず、誰もが気持ちよく利用できるよう地域公共交通マナーを守りましょう。

